

＜田んぼの困りもの＞径が1cmほどの白い小さな菊のような花と表面がデコボコした緑の丸い実を付けた草がビオトープのあちこちに生えています。タカサブロウという水田のタフな雑草です。人の名前ようですがその謂れはよく分かっていません。ただ、草を揉んで出てくる汁はたちまちに真っ黒になることから、高三郎さんが最初に墨の代わりに使ったのかもしれませんが^註。南アジアまで広く分布していて、全草を乾燥したものは鱧腸（レイチョウ）といい、煎じて吐血の薬とします。（注：墨菜ともいう）



＜タカサブロウ＞

＜飛行船のプロペラ＞同じく田んぼの雑草の一つのアゼガヤツリがいろんなカヤツリグサの仲間に混じって流れの中に生えています。花は宮崎駿のアニメにしばしば登場する飛行船のプロペラか、逆さまの線香花火のように見え、カヤツリグサの仲間のうちでとりわけ繊細な感じがします。



＜アゼガヤツリ＞

＜蝉しぐれ＞今年は夏の真っ盛りに蝉の声をとんと聞かないなと思っていましたが、8月の終わりからミンミンゼミの大合唱が始まり、その中にツクツクボウシの鳴き声も混じってきました。好い写真が撮れる前に蝉がいなくなりそうなので写真なしですが、蝉の声を思い浮かべながら読んでください。ところで、芭蕉が山寺で詠んだ「静けさや岩にしみいる蝉の声」の蝉は何ゼミでしょうね。

蝉しぐれの下ではキチョウがひらひらと舞っては名残のミソハギの花にとまり蜜を吸っています。また成熟して真っ赤になったナツアカネの姿も見られます。トンボの多いことはすでに話していますが、チョウのほうはキチョウ、シロチョウ、シジミチョウ、セセリチョウといった小型のものが殆どです。柑橘類が植わっていないせいかアゲハチョウの舞う姿は残念ながら見られません。



＜ミソハギとキチョウ＞

＜赤くなったナツアカネ＞→

＜チョット来い、チョット来い＞と林の中から響きわたるのはコジュケイの鳴き声です。用心深くてなかなか人の近くには姿を見せない鳥ですが、このところ数羽がビオトープに遊びに来て



←＜コジュケイ＞



います。 (文と写真:松本正勝)